



はじめに

釧路湿原森林ふれあい推進センターでは、標茶町立中茶安別小中学校の学校林活動を支援しています。

同校は標茶町の中茶安別地区に所在し、小学校と中学校が併設された小規模校で、少し離れた学校林で、「森林環境教育年間指導計画」により、様々な自然体験学習を実施しています。

春の学校林活動

春の活動では、平成29年の冬に学校林の一部が伐採され、平成31年の春に植樹が予定されていることから、児童・生徒がその跡地に、何を植栽して、どのような学校林を目指すのかを検討する基礎学習として「樹木の観察」を企画しました。

この「樹木の観察」では、小学生と中学生の2班に分かれ、学校林の遊

歩道を歩きながら、当センター職員が、花の咲く木や実のなる木等の樹木の特徴を解説しました。



学年代表による発表

最後にまとめとして、各学年の代表から植栽したい樹木の発表がありました。

夏の学校林活動

夏の活動では、森林が野生生物の生息場所となっていることを知ってもらうこと、また、自分や地域と自然・森林とのつながりを考えてもらうことをテーマとして、虫などのいきものを採すフィールドワークを行いました。

まず始めに、森林管理署の担当者が、ゲームの

方法や虫の探し方を説明し、その後、小学生と先生が3班に分かれスタートしました。

各班は、遊歩道や笹地・水辺等で、虫などのいきものを探すとともに、見つけたものを記録し、「見つけた場所ピンゴカード」で何列ピンゴできるか、競っていました。



見つけたいきものをカードに記録

秋の学校林活動

秋の活動では、「来春の学校林の植樹に当たり子ども達が、森林の将来像をイメージしながら、植栽する樹種を検討したいので、春の学習内容を深める内容でお願いします。」と、担当の先生から

の要望を受け、樹木の特徴や適応性等をテーマとして企画しました。



春に植栽する樹種を検討

植栽箇所得当センター職員から、イヌエンジユ・エゾヤマザクラ・オニグルミ等の17種類の樹木について「花・実・紅葉が美しい」や「香りが良い」等の特徴、また「人工林で必要な作業」、「木と植える場所の相性」、「森のいきもの」等も解説しました。

最後に各班の代表から「春の花・秋の実等、四季を楽しめる森林」や「食べ物や薬になる森林」等、植栽したい樹種の発表がありました。今春の植樹が楽しみです。